８　児童労働

山口　新田　長谷川　田川　1 月12日

国際労働機関

国連事実ファイル：国連労働機関（ILO）

１９１９年のヴェルサイユ条約のもとでのその創設以来、国際労働機関は児童労働に特別な関心を抱いてきた。今日、世界中で働いている子供たちは２億人にも達していると見積もられ、彼らの多くは農薬のような危ない汚染物からの危険にさらされている。

国際労働機関の主な目的は児童労働を撲滅することであるが、それが時間のかかるものだと容認している。これが達成されるまで国際労働機関はその暮らし向きや児童労働者の最小年齢の設定、児童労働の問題に対する人々の関心の向上を含む児童労働者の労働状況を、向上し改善するためにいくつかの方法を使うだろう。

それはまた独自のやり方を押し付けるというよりむしろ、その地の率先として政府と共に活動するというものである。

それは１９４６年に最初の国連の分化した機関となり、労働者や雇用者の代理人が公式な方法で政府と平等な発言権をもつ唯一のものである。国際労働機関はいたるところにいる労働者の社会的な公平を増進させるために運営されている。

国際労働機関の連絡先：

４ Route Des Morillons

CH-1211　Geneva 22　Switzerland

イギリスの児童労働

１９世紀中、児童労働は産業の発達したイギリスでは普通の事であった。チャールズ・ディケンズは彼の有名な小説「オリヴァー・ツイスト」の中で 19 世紀のイギリスで育った若い孤児の苦難について書いている。この抜粋では、若いオリヴァーは葬儀屋のサワベリーのところに奉公に出ている。

一ヶ月の見習い期間が終わり、オリヴァーは正式に奉公に出された。それはちょうど、今のところ病人の多い良い季節であった。商業の言葉では棺の価格は上向き、数週間の過程でオリヴァーは多くの経験を得た。サワベリーの巧妙な思案は彼の望んでいたものをも超えた。はしかがひどく流行したことや、幼児の生活にはひどく致命的であったことは年をとった住人もその期間を思い出さないほどであった。そして帽子のリボンを膝までたらした小さなオリヴァーの率いる多くの悲しげな行列はその町の母親たちに言葉で言い表せないほどの感嘆と感動をもたらした。オリヴァーは主人に同行して大人の葬式にも行ったので、彼は葬儀屋に必要な落ち着いた振る舞いと感情を支配する度胸を得た。そしてそこで諦めや耐える力で、強い心の人々が苦難や喪失に耐えるところを観察する機会を多く得た。

たとえば、サワベリーが金持ちの年取った夫人や紳士の埋葬の指示を受ける事がある。多くの甥や姪は病気の間は完全に悲しみに沈み、公衆の前でも悲しみが抑えきれずにいるが、彼らたちだけになると何も彼らを悩ませる事などなかったかのように自由で陽気に話す。夫たちもまた妻を失ったことに大げさな静けさで耐える。妻たちも夫のために喪服を着るが、悲しみの服装をして深く悲しみはせず、できるだけ魅力的にすると決めていたかのようである。埋葬の式の間は苦痛を感じていた紳士や夫人が家に着くとすぐ回復し、お茶を飲み終わる前に心を落ち着けるのも注目すべき事である。これらは全て見ていて面白く、利用できる事であり、オリヴァーはそれを感心して見ているのだ。

アンカラのストリートキッズのための新しい収容施設

彼らは遠くからでも彼を簡単に識別できる。野外市場への入り口で大きな5階建ての駐車場の近くで彼（アーギン？）の周りの彼らの群集の約10は彼らの特大のコートの上を笑いながらお互いに押し分けて進んでいる。

アーギンと彼の友達のビヒートとモーラットがいる。カンと彼の弟ファラットとその他の幾人。朝7時から彼らは市場の中の氷のように冷たいぬかるみやがらくたの中を浮浪している。彼らの肩に紐をつるして彼らは買い物のために通行人に提供するプラスチックのバックの包みを運ぶ。夜までにこれらの子供たちはいく千かのトルコの金をかろうじて稼ぐ。

彼らが彼らの両親のいる家につれていく少しのアメリカのドルと同等である。

観光客の背が高くて若い口ひげとめがねのトルコ人の名もまたモーラットで、注意深くストリートキッズが言わなければならない事を聞いている。

モーラットは公務員でアンカラ市の近くで若い同僚とともに一月からストリートで働く子供たちを守るための、そして社会での地位を彼らに見つけることを可能にするための企画の任務についていた。

潜在的な浮浪者たち

靴磨き、車洗い、果物や花、タバコ、雑貨などの商人たち、夏の時期の水運搬人など…彼らの数は数千にもなる。平均して7歳から15歳の間の子どもたちが、自分たちができることを探しに街の通りをさまよい、中には時々学校に出席する者や、常に通りで働く者もいる。

すべての子どもたちが彼らの運命に満足しているわけではない。Erguinは、例えば、アンカラでの生活を見つけたのだが、「Erzerumより悪くない」という。それはイランとの国境に近い彼の出身地でもある東部の街のことだ。やはり、この点で彼

活動：ディケンズ

グループではっきりと内容を読み取り、クラスでディスカッションの前兆として次に起こる問題を検討しなさい。

1. なぜディケンズは「病気の多い季節」は「よい」と言うのか。
2. オリヴァーがサワベリーによって与えられた仕事は何か。
3. オリヴァーは何人の人が他人の死に反応するか、彼らの抵抗する能力に感嘆するか、調べる機会を持った。豊かな婦女や紳士の死について会葬者の言及の仕方を見なさい。
   人間の振る舞いについてディケンズが私たちに語っているものは何か、そしてオリヴァー・ツイストの人間性について彼はなんといっているか。
4. もしオリヴァーの状況が現存しているならILOはどのように関わってくるか。

活動：アンカラ

グループで、アンカラのストリートチルドレンのための新しいシェルターについて引用を読みなさい。（ＩＬＯ出版）

１．子どもたちはアンカラの通りでどんな仕事をしているのか。

２．子どもたちは働いている間どんな危険に直面するだろうか。

３．ＩＬＯとアンカラ市は、子どもたちの保護を手助けするために何をしたか。

４．小グループで、２人のソーシャルワーカーに、彼らのアンカラでの仕事や何故それが重要なのかということをインタビューするラジオ番組の筋書きを書きなさい。インタビューをテープに録音し、あなたのクラスに聞いてもらいなさい。

５．小グループで、児童労働の長所と短所について討論しなさい。それは違法とされるべきだろうか。またそれが家族や国家経済に与えるだろう影響はなんだろうか。

と仲間たちは、(Erzerumの）天気の気まぐれさ、過酷な扱われ方、事故の危険と悪い影響を挙げている。（アンカラでは？）医療上や、他のいかなる種類の学校教育や職業上の訓練による、事実上のすべての欠席は言及されない。このことが彼らを生涯浮浪者にさせ、人並みの仕事につく資格を得られなくしている。2ヵ月の間に、街の中心に近い商店街で2人のソーシャルワーカーが90人以上の子どもたちを確認し、規則的に連絡をとることを定着させた。彼らは子どもたちを働かせる力の理由や、子どもたちがいくら稼ぐのか、子どもたちは何を夢見ているのかを知るために、彼らと彼らの家族についてたくさん知ることを覚えた。

2人のソーシャルワーカーは夏の始まる時期に、駐車場のそばにある、子どもたちのために特別にデザインされた医療施設で、（施設の？）始まりについて話した。ここでは子どもたちが望むときに体を洗ったり、休んだり、体力を回復したり、また世話をしてもらったり遊んだり、さらにボランティアの大人たちと宿題をすることもできる。1階の1200㎡の範囲がこの目的のために整備されている。